

花の真実泉

菅江真澄翁真蹟

高珍

M  
5  
(45)

取調法人  
東京大学  
蔵書印

法華院  
藏  
本

花の真実泉

高清水 一丁才  
 櫻清水 二丁才  
 桂清水 二丁ウ  
 みあじ泉 二丁ウ  
 淨眼しづ 三丁才  
 小和清水 三丁才  
 雁鳥羽清水 三丁ウ  
 ここのけ泉 三丁ウ  
 旗吹清水 四丁才  
 殿裏泉 四丁ウ  
 大杉清水 五丁ウ

比良清水 五丁ウ  
 御返事清水 六丁ウ  
 小町清水 七丁才  
 太郎八寒泉 七丁ウ  
 石神しづ 八丁才  
 洞貝清水 八丁才  
 安波布久寒泉 八丁才  
 五丁うすの清水 八丁ウ



云々世の春はなうほりみまの妙れ  
 料野のく東間郡書本近きわらふ  
 任りて清水の里をまつりてをりし  
 まれ櫻のむしくと咲き井の水をくむ  
 むもふふ小花の香も花の香も  
 事ありてありむし樹をまてふ一  
 書に記し筆のまふしとさうて  
 むもひ試みて寒の泉ももむと  
 見むくこも清水狩あんな清水  
 といふとほらとやうに北あまの  
 名も名つた

菅江真澄

高

花のよ寒泉

高清水

菅江真澄 誌

續紀上卷中、天和五年二月己未、出羽柵遷置秋  
 田村、高清水田、又於雄勝村建郡、居民馬を遷せり  
 此秋田村と云ふ地、今も秋田郡率浦、傳名抄に秋田  
 莊寺裡に在り、其も秋田村も雄勝村並  
 郡とあり給ひつもの事、水の高影と記すも、注を  
 考へれば、此高泉の又の名を、行人清水ともあり、  
 下野國太田原の城主、澁谷淡路守重虎とて、金王登  
 後、傳に七万五千斛を給りしが、天正のころ出家し、  
 宥月法師と云ひ、母の心にかゝり、五にあり、  
 出羽國ふら、羽黒湯殿の敷を、分たり、中流、秋田路、  
此の所なり

古四王の事にて高清水の事にて牙と云ふ事ありしを  
 行人清水の名あり、省月法師、一夜勝平山、其處の里小  
 泊する夢よ、山不動尊子あり、空海のらるるに作らせ  
 給ふ尊像とて、雲をたぬれ、鶏の初夜と待て、此山に登  
 明皇の像を侍りて、寺内村小庵をむとび、於て古四王  
 小まうでなす、玉守社あり、石階のまはり、踏む  
 いふ事あり、河の給ふ事あり、此山をくまを  
 始め、月安、其處を給ひ、寺を建て給ひ、省月法師の  
 給ひしと云ふ、其寺、久保田の鉄炮町に在る、勝平山、定水寺  
 行福院これなり、本尊勝平山出現の不動明王、俣尺一尺  
 六寸二分、天照皇太神御神形、法谷、金玉王曆、鎮守、  
 一尺七分、春日の住心、大黒天御尺、五寸、運慶の作なり、

釋迦如來、後二軀、聖德太子御作、重虎母堂、念持佛、  
 胎藏界大日如來、云々、國守義隆、御甚堂、所出、寄附  
 云々、其外、寶物、舊器等、多し、今、寺もあられ、その多  
 く、よも、し、く、せ、ら、り、と、し、り、

櫻清水

概し、あ、れ、の、名、を、さ、く、井、に、よ、り、三、河、國、の、金  
 高真、高真、福とて、三人の長者あり、その真福の言  
 提寺と真福寺と、此寺、櫻井と、さ、く、清、水、と、  
 さ、く、の、古、井、あり、弘法大師の教を、敬、水、に、汲、ひ、ら  
 ら、び、花、の、影、さ、し、つ、ら、も、さ、く、さ、く、の、お、れ、を、  
 甲、と、お、し、中、橋、井、と、い、り、あり、そ、こ、に、櫻、の、井、と、  
 名、清、き、井、あり、つ、ら、も、さ、く、さ、く、の、お、れ、を、

二平  
上

桂清水

出所 秋田郡南比内庄前田村南比内庄の南田を流るの坤の邊に  
 杜あり其森の内、觀世音とて名する。桂のうづり木  
 あり地うづりあり。板屋楓樹の大木あり。その  
 ともより涌る。北桂清水とて、陸奥國の淨法寺の桂  
 清水の外をも地前田村に近き、並館をも桂清水あり。また  
 北に南比内庄、縣に近く、桂清水あり。その明田の邊に  
 あり。そのとも、桂清水を總のうづり田男がそとく。あり。

みあはしほ

出所 南比内大子内村の八幡社の大杉のともよりあり。地味  
 あり。杉のうづりあり。大池とあり。その其本、二筋あり。あれ。と  
 田の向は流る。

淨眼清水

出所 大河仁道上杉村小古城跡あり。秋田城介實季  
 家士上杉半左衛門武信とて、承慶軍記に因せり。その  
 ともより、もも上杉村ともあり。大平の古名に北上杉  
 あり。上田清水ともあり。むう比内大館の坂を依り、  
 大和某君隠居淨眼翁鷹狩のとも、此地をともあり。め  
 ごとく、おれり。その名あり。とあり。

小和清水

出所 秋田郡五十二日森山の麓にあり。そのともよりあり。大杉  
 あり。二平のともあり。むれあり。さか上人の著せり。  
 繪あり。むれあり。そのともよりあり。小和清水とて、此地の根より  
 涌りて出で、強直水とて、小和清水とて、そのともよりあり。

南比内山

そのともよりあり

三

古き名ナドコロの池に強清水ありてよき津野浪岡とむし  
小和清水桂林と云鏡工ありて多く鏡とて名ぬ今も是也  
波置鏡とて家々の宝具器とてその中も代衣鏡あり  
わきま出まらばやのこ

雁鳥の清水

みちのく金田里多々金田の驛の近なる山石のさる雁鳥  
の池形してその池壑の中より流れ出さるる水とて  
清く世々めづりしき清水と夏の始まるとまて  
一とて柳依し柳牙よりあびく凡の涼しき

三河國矢作小金山長者と

三河國矢作小金山長者と福徳自在の鏡在りし  
まのじし金寶櫛治まのかり除夜海に女もの樂をま

御曹司牛若君横簫と吹き合せ給ひし事なりあり  
世ふ今思ひ此長が宿を建とて大なる清水ありして砂金  
とて是と理しその理に幾も井よりあまふさうとて  
語り傳へしその一とて名あり其長者の跡を今の矢作の  
十王堂柳堂のりありける

出羽國雄勝郡宇留院内

出羽國雄勝郡宇留院内出帆吹寒泉とてふ水あり  
とて妙に九月九日東鳥海の鏡祭りなれば人群れおらづれ  
此清水のほとふ茶店を営て鏡酒と售りし幅福とて名  
いありしとて幅福扇吹をともて同國秋田郡率浦在  
濁河村の字地の名もあり又仙北郡横手郷も白田福  
名あり又酸川嶽の藤沼の一石も波多布久とてひまのまの丹

あつしよ

四

さらば... なる名あり

飛清水

同雄勝郡須川村... 此村の漆物師... 筆の大和物語... 陶淵明桃花源記... 内蔵之助... 元禄... 寺坊吉... 飛清水の事

諸家人物誌云... 飛水姓... 朱氏名... 之瑜... 字... 魯璠... 魚... 楚... 非... 印... 楚... 明... 秦... 楚... 頃... 正... 存... 定... 寧... 明... 官... 先生... 九... 父... 喪... 長... 及... 明... 季... 傾... 廢... 時... 遇... 七... 薙... 髮... 及... 三... 從... フ... 甘... 甘... 中... 興... 志... アリ... テ... 安... 南... 國... 渡... リ... 日... 本... 三... 東... 此... 時... 明朝... ニテ... 忠... ヲ... 抱... テ... 兵... ラ... 擁... スル... モ... 悉... ク... 節... ニ... 死... シ... 胡... 清... ニ... 統... セ... ル... 間... テ... 快... 復... 時... ヲ... 得... ハル... ラ... 歎... ス... 安... 藤... 省... 菴... 其... 德... 望... ヲ... 欽... テ... 師... トシ... 仕... 強... テ... 日... 本... ニ... 留... レ... ヲ... 請... フ... ヲ... ヲ... ヲ... 踏... 海... ノ... 節... ヲ... 全... 水... 府... 西... 山... 公... 道... 學... 殖... 間... 禮... 節... ヲ... 重... シ... 待... ス... 九... ニ... 師... 友... ノ... 禮... ヲ... 以... テ... ス... コレ... ニ... ヲ... テ... 水... 府... ニ... 客... ヲ... リ... 卒... ス... 八... 十... 三... 文... 恭... 先... 生... 謙... 不... 兼... 子... 談... 綺... 齋... 水... 文... 集... ヲ... 著... ス... ト... 忍... 之... 子...

ふの... 子...

五



大杉清水

同郡松田郷乃福屋後之存、此杉七回ノ室、杉之木  
の内小、白蛇ハクシヤのしよ、さかやう、若島ノ堂、作事、是之松  
園ノカの七ナナ奇キのツツとせり、

比良寒泉

同郡桑高境、枝村、小比内、此所ニ在り、ハ家ノも多し  
處ニ也、此山、小古名多し、平把津ノ山、陽ノ山、神ノ座ニ、立石津  
七ツ窪ツ澤ツ、而ハ侯ノ津ノ、橋本津ノ、不動ノ津ノ、養ノ老ノ元ノ年ノ、棟ノ札ノ  
あり、不ノ高ノ明ノ主ノ堂ノあり、天明三年ノのハみノかノるノとハ焼ノきノ、桑木  
緞ノ子ノ津ノ、松ノ比ノ良ノ、比ノ良ノ清ノ水ノ、檜ノ津ノ、一ノ把ノ津ノ、二ノ把ノ津ノ、三ノ把ノ津ノ  
隱ノ宮ノ、平ノ比ノ、るノどノりノけノひノるノもノ多ノし、その中ノ、立石ノの津ノ、  
名ノ處ノあり、此立石ノのハもノとノくノ多ノれノと、此ノきノ、小大室ノ、驛ノをノ古跡ノのハ殘ノ

ととく考へ思へ、續紀廿一卷、竈負亀土年云、庚子征東使  
奏曰、蝨ノ蝨ノ、蝨ノ蝨ノ、蝦夷ノ、勇ノ寔ノ、鯨ノ有ノ從ノ、或巧ノ言ノ連ノ謀ノ、或窺ノ隙ノ肆ノ  
生ノ、是以遺ノ二千兵、經畧ノ、龍馬ノ座ノ、楯ノ座ノ、楯ノ石ノ津ノ、大菅屋ノ、楯ノ津ノ  
等五道、新木塞ノ、在ノ除ノ溝ノ、作ノ險ノ、以ノ斷ノ逆ノ賊ノ、首ノ竄ノ之ノ要ノ害ノ、  
於是、勅曰、如聞ノ、出ノ羽ノ國ノ、大室塞ノ、寺ノ、亦足ノ賊ノ之ノ要ノ害ノ也、每  
伺ノ間ノ隙ノ、頻ノ來ノ、冠ノ掠ノ、宜ノ御ノ將ノ軍ノ、及ノ國ノ司ノ、視ノ量ノ地ノ勢ノ、防ノ禦ノ  
非常ノ、と見ノえノるノ、就ノ鳥ノ座ノをノ今ノもノ足ノ倉ノ山ノ、小安ノ、温泉ノのハ奥ノ山ノ、  
畠ノ等ノ、在ノ於ノ郷ノ界ノのハあノるノ、岩ノ嶺ノ、楯ノ座ノ、館ノ倉ノ、とノ山ノのハあノるノ、  
山ノ麓ノのハあノるノ、楯ノ石ノ津ノ、此ノ立石ノのハあノるノ、大菅屋ノ、杉ノ谷ノ、地ノとノいノか  
あり、今、柳ノ津ノ、此ノ桑ノヶノ崎ノのハ西ノ侯ノのハ古ノ名ノ、大柳ノ津ノあり、古ノ柳ノのハ  
朽ノ根ノあり、そのやうあり、そのやうあり、五道ノのハ古ノ地ノあり、むノらノのハ  
乃ノぬノしノ、倭ノ漢ノ三才ノ圖ノ會ノ云ノ、寶珠山ノ立石寺ノ、在ノ最ノ上ノ中野ノ、

このやうに

寺領千四百二十石開基慈覺大師本堂樂師寺舎土坊  
堂塔多寶物數多堂後有清泉即大師所修也八町  
上有奥院と云ふより名を其立石寺あるをいふに  
五道内ある立石除くより立石と云名跡より多し  
能く考ひ定めてあり記し残るべし

御返事清水

御返事本報麦稈の保年弊都程と云言の誤りあり  
保武敬知と云少川あり小河と云よりき實ありしこ  
そを清水前として田畠の字とあり此も在勝郡奥羽永  
慶軍記に角籠の領を戸澤治部少輔盛安關苗原と討死の後  
此寺遠江守義道世の空言と誠と書盛安が妻子とと先討  
挿といはるる盛安の子太郎ありけり古京介政盛継母の

角籠と落りたるなり小開口合河御返事里と敵の領  
内と云く一と忍び過る小野小町の古堰と云なり横堰の橋を  
渡り口内の日も浸ぬを云ふ此口内と云鴨夷語と表知は  
同名ありを夏海と云事には夏をきき海と云事あり  
古名小鹿子橋都町雪の原白雪の原と云ふなり  
都人の極居し難と云雅言多し

小町の清水

山本郡今人の本郡と云ふ仙北郡の上石河存小町村あり其石川の  
河岸に寒泉あり小町の清水といふ字一と云小町と云老と雅勝の  
郡小町の十嶋に在り河北の薄代の南の奥の奥の目高山と云  
坊場の大日如来と云ふをいふ地をよめて来れと云ふなり  
今もいふと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり

太郎八清水

此の事ら西に出路の... 卷小は... 雄勝郡末舞神の内塔箇澤村... 太郎八と子春のむじび... 病と多口波知と此地寒... 名うた... 脚腫れ病あり... 象脚中... 病をマツロと云ふ... タツヒと云むく水の涌る...

石神清水

秋田郡神定在鳩崎村の善即... 石神ともま... 身小瘡出... それ小瘡豆で...

法螺貝清水

同神定の下川の山王... 法螺貝清水

粟吹

山本郡粕毛村の奥山... 多うねを紫人け...

のり...

山(マシシ)の海(うみ)あり、女(メ)もさうい、巳(巳)も折(折)りの手(て)に、さうい、山(山)吹(吹)を  
あほ(あほ)づき、雲(雲)泉(泉)と、さうい、あつ(あつ)く、さうい、集(集)二(二)巻(巻)を、さうい、  
まの(まの)し、あつ(あつ)く、山(山)陰(陰)を、さうい、さうい、道(道)の、さうい、さうい、さうい、  
此(此)う、さうい、さうい、さうい、さうい、粉(粉)の、山(山)嶽(嶽)子(子)雲(雲)霞(霞)時(時)を、さうい、馬(馬)形(形)  
あり、さうい、鹿(鹿)素(素)威(威)を、さうい、さうい、さうい、山(山)小(小)代(代)替(替)石(石)産(産)ま、さうい、空(空)の、不(不)動(動)  
あり、さうい、さうい、さうい、山(山)は、さうい、さうい、さうい、

香(か)う海(う)る水(水)

秋田(秋田)城(城)下(下)久保田(久保田)の、城(城)町(町)元(元)和(和)寶(寶)水(水)の、さうい、寺(寺)内(内)村(村)より、さうい、來(來)さ、  
一(一)町(町)の、さうい、古(古)四(四)王(王)宮(宮)を、さうい、本(本)殿(殿)神(神)を、さうい、朝(朝)文(文)子(子)釋(釋)藥(藥)毘(毘)文(文)を、  
樹(樹)く、正(正)月(月)の、精(精)齋(齋)を、さうい、寺(寺)内(内)七(七)日(日)の、忌(忌)言(言)に、さうい、さうい、さうい、  
あり、さうい、三(三)日(日)三(三)夜(夜)の、禱(禱)を、さうい、さうい、さうい、さうい、さうい、さうい、  
絶(絶)く、瀧(瀧)邊(邊)仁(仁)左(左)門(門)板(板)垣(垣)理(理)右(右)衛(衛)門(門)五(五)十(十)嵐(嵐)久(久)左(左)衛(衛)門(門)野(野)上(上)嘉(嘉)兵(兵)衛(衛)

舟(舟)木(木)多(多)吉(吉)郎(郎)の、さうい、規(規)あり、地(地)舟(舟)木(木)上(上)祖(祖)を、土(土)崎(崎)の、淡(淡)々(々)沖(沖)口(口)屋(屋)  
舟(舟)木(木)氏(氏)の、さうい、本(本)兄(兄)弟(弟)交(交)し、さうい、さうい、舟(舟)木(木)氏(氏)を、さうい、負(負)を、さうい、さうい、さうい、さうい、さうい、  
あり、さうい、さうい、さうい、さうい、さうい、さうい、さうい、さうい、さうい、さうい、さうい、  
正(正)一(一)位(位)稻(稻)荷(荷)社(社)あり、地(地)御(御)神(神)を、紀(紀)伊(伊)國(國)屋(屋)善(善)右(右)衛(衛)門(門)家(家)の、さうい、さうい、  
あり、さうい、さうい、寛(寛)保(保)の、始(始)め、紀(紀)伊(伊)國(國)屋(屋)大(大)仙(仙)坊(坊)の、後(後)を、さうい、さうい、さうい、さうい、  
あり、さうい、雄(雄)勝(勝)郡(郡)院(院)内(内)銀(銀)山(山)小(小)在(在)り、其(其)法(法)師(師)久(久)保(保)田(田)小(小)春(春)あり、さうい、  
あり、夜(夜)の、さうい、我(我)を、院(院)内(内)が、稻(稻)荷(荷)の、法(法)行(行)を、さうい、さうい、さうい、さうい、  
あり、さうい、地(地)を、小(小)齋(齋)を、法(法)社(社)を、さうい、さうい、さうい、さうい、さうい、さうい、  
あり、善(善)右(右)衛(衛)門(門)錫(錫)の、宗(宗)師(師)小(小)巳(巳)の、家(家)を、さうい、さうい、さうい、さうい、さうい、さうい、  
あり、行(行)東(東)を、さうい、さうい、大(大)仙(仙)坊(坊)の、行(行)ひ、さうい、さうい、小(小)院(院)内(内)の、大(大)仙(仙)と、い

高岨<sup>タカノ</sup>ありその稻荷<sup>イナリ</sup>御神<sup>ミコ</sup>といふ陰<sup>カゲ</sup>の宿鳥<sup>ヤクトリ</sup>築山<sup>キゼン</sup>の秘<sup>ヒ</sup>蘇<sup>ソ</sup>南<sup>ナン</sup>津<sup>ツ</sup>と  
 いふあり其正<sup>マサ</sup>位<sup>イ</sup>稻荷<sup>イナリ</sup>神社<sup>ジヤ</sup>あり其正<sup>マサ</sup>樂<sup>ラク</sup>寺<sup>ジヤ</sup>其真<sup>マコト</sup>言<sup>コト</sup>佛<sup>ブツ</sup>舎<sup>シャ</sup>  
 舊<sup>フル</sup>跡<sup>トコロ</sup>もも飯<sup>イハ</sup>所<sup>トコロ</sup>也<sup>ナリ</sup>神<sup>カミ</sup>産<sup>ウマヒ</sup>り其<sup>その</sup>地<sup>チ</sup>坊<sup>ボウ</sup>小<sup>コ</sup>遷<sup>ウツリ</sup>  
 飛<sup>ヒ</sup>鳥<sup>トリ</sup>といふ此<sup>この</sup>町<sup>マチ</sup>中<sup>ナカ</sup>成<sup>ナリ</sup>つる成<sup>ナリ</sup>つる其<sup>その</sup>地<sup>チ</sup>原<sup>ハラ</sup>中<sup>ナカ</sup>  
 其<sup>その</sup>地<sup>チ</sup>好<sup>ヨシ</sup>井<sup>イ</sup>ありしか人<sup>ヒト</sup>任<sup>マカ</sup>栖<sup>ス</sup>地<sup>チ</sup>震<sup>ユラ</sup>り由<sup>よし</sup>理<sup>リ</sup>れり跡<sup>トコロ</sup>もあつりし  
 其<sup>その</sup>地<sup>チ</sup>泉<sup>イハ</sup>ありし路<sup>ミチ</sup>四<sup>ヨ</sup>屋<sup>ヤ</sup>權<sup>ケン</sup>堂<sup>ドウ</sup>門<sup>カド</sup>と家<sup>イハ</sup>あり其<sup>その</sup>地<sup>チ</sup>家<sup>イハ</sup>と其<sup>その</sup>  
 津<sup>ツ</sup>乃<sup>の</sup>つり任<sup>マカ</sup>ぬ中<sup>ナカ</sup>やう録<sup>ロク</sup>す今<sup>イマ</sup>蠟<sup>ロウ</sup>燭<sup>ソク</sup>驛<sup>ヤク</sup>中<sup>ナカ</sup>嶋<sup>シマ</sup>宅<sup>タク</sup>左<sup>サ</sup>門<sup>カド</sup>をり  
 此<sup>この</sup>中<sup>ナカ</sup>嶋<sup>シマ</sup>家<sup>イハ</sup>小<sup>コ</sup>文<sup>モン</sup>政<sup>セイ</sup>二<sup>ニ</sup>年<sup>ネン</sup>の秋<sup>アキ</sup>あり井<sup>イ</sup>と掘<sup>ウダ</sup>りし其<sup>その</sup>地<sup>チ</sup>好<sup>ヨシ</sup>きあり  
 いづ漏<sup>シ</sup>出<sup>デ</sup>り其<sup>その</sup>地<sup>チ</sup>ありつる清水<sup>シミヅ</sup>と樹<sup>キ</sup>り中<sup>ナカ</sup>嶋<sup>シマ</sup>といふ

言田の清水

其<sup>その</sup>地<sup>チ</sup>津<sup>ツ</sup>輕<sup>ケイ</sup>あり津<sup>ツ</sup>河<sup>カ</sup>の弘<sup>ヒロ</sup>前<sup>マエ</sup>の好<sup>ヨシ</sup>きあり其<sup>その</sup>地<sup>チ</sup>好<sup>ヨシ</sup>きあり  
 清水<sup>シミヅ</sup>といふ其<sup>その</sup>地<sup>チ</sup>あり其<sup>その</sup>地<sup>チ</sup>好<sup>ヨシ</sup>きあり其<sup>その</sup>地<sup>チ</sup>好<sup>ヨシ</sup>きあり

破損あり

14/14

